

児童の観察と個に応じた指導に関する一考察

山口 大樹（長崎大学大学院教育学研究科）

呉屋 博（長崎大学大学院教育学研究科）

倉田 伸（長崎大学大学院教育学研究科）

篠崎 信彦（長崎大学大学院教育学研究科）

I. はじめに

これまでに筆者は、学習指導における自己尊重の態度の育成とその評価の在り方に関する研究に取り組んできた（山口、2020）。本実践研究では、その過程で見られた短期的な児童の変容についての分析と指導の在り方に関する検討を試みた。その結果、児童らは、自己尊重と他者尊重の傾向において、概ね9つのグループに分類された。さらに、日頃の児童観察と照らし合わせて、指導の在り方の工夫改善を提案した。

キーワード：自己尊重、他者尊重、自己尊重、学習指導

II. 学習の場における児童の自己尊重の態度の把握

(1) 児童の実態

児童の自己尊重の態度を把握するために質問紙によるアンケート調査（表1）を行った。また、児童とのかかわりや担任教師へのヒアリングを通して実態把握を行った。調査対象は、長崎県内A小学校の第5学年の中の1クラスであり、男子21名、女子17名の計38名である。

表1 自己尊重アンケート

自己尊重度に関する項目	A. 自分の意見は、自信をもって言うことができる。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	B. 友達ができていることは、自分にもできると思うことがある。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	C. 自分には、人にじまんできるところがたくさんあると思う。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	D. 友達と意見が違って、自分の意見をはっきりと伝えることができる。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	E. 自分のできないことよりも、できていることは何かを考えようと思う。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	F. けんかした相手でも、すぐ仲直りすることができる。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	G. 自分のできないことを友達ができるとき、すなおに喜ぶことができる。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	H. 授業中に、友達がどんな考えや意見をもっているか知りたいと思う。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	I. 自分の苦手なところは、友達に助けをもらいたいと思う。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
	J. 友達の考えや意見を聞いて、自分の意見が変わることがある。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない
他者尊重度に関する項目	K. 自分の意見とほかの人の意見が違くと不安になることがある。	①はい	②どちらかと言えばはい	③どちらかと言えばいいえ	④いいえ	⑤どちらとも言えない

表1の自他尊重アンケートの結果より、自己尊重するよりも他者尊重する傾向が高いことが分かった。「対話をしたい」という意欲や、対話を通しての自己の考えの変容を感じている児童が多いことが分かった。その理由を検討するために、学級担任の教諭に対してインタビューを行った。その結果、「A小学校では低学年の頃から、対話する場面を授業中に設定しているため対話に対して抵抗がないことが挙げられる」という意見があった。これらより、他者尊重度が高いことと関係しているのかもしれない。また、筆者による直接観察から、半数以上の児童において、班（グループ）での活発な話し合いが見られた。挙手をして全体の場で発言する児童は10人程であるが、グループワークという環境を設定することで自らの意見を発信することにつながったのではないかと考えられる。しかし、その一方で、自分の意見や意思を表現できなかつたり、自己肯定感が低かつたりする課題が見られた。高学年という発達段階の中で、「周りにどう思われるか」という不安や、他者と比較することで感じる劣等感などが原因ではないかと考えた。

(2) 授業のねらい

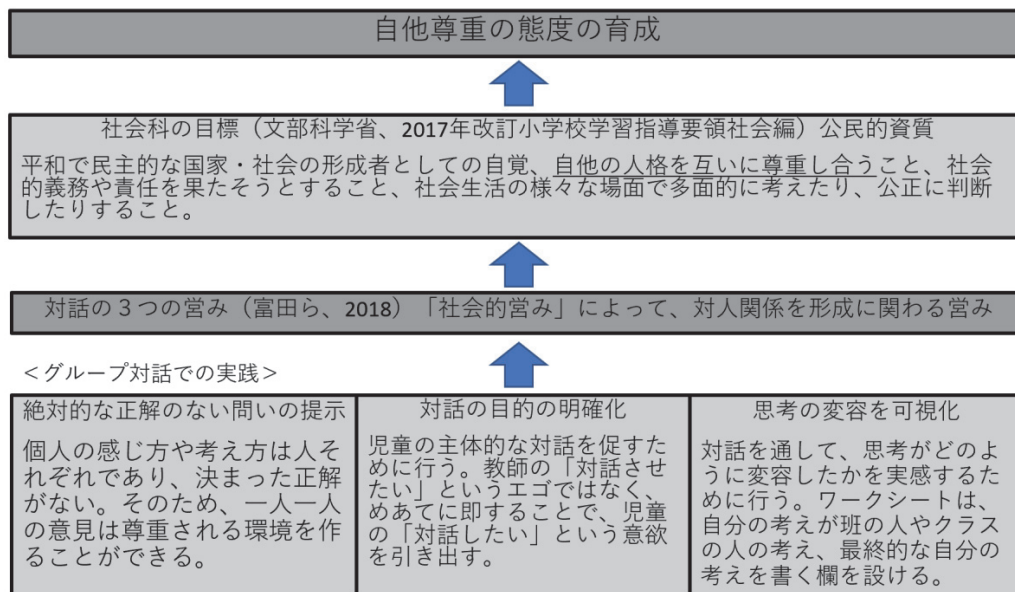


図1 自他尊重の態度を育むことをめざした授業

本実践研究における自他尊重の態度を育むことをめざした授業を図1に示す。自他尊重の態度を育成するために、社会科の授業の中で「立場や視点によって、意見が違うことを認識する授業」と「多面的な考えの中で意思決定する授業」の2つを仕組むデザインである。

立場や視点によって、意見が違うことを認識する授業実践を3時間行った。この授業実践のねらいは、立場や視点によって、意見が違うことを認識することだ。自他の考えを尊重できるような態度の育成を目指すためには、一人一人の意見が

尊重されるような場を作ることが大切である。そのために、個人の考え方や感じ方の違いのある問いを投げかける。それらは個人の感じ方や考え方であり、決まった正解がないため、一人一人の意見は尊重されるものである。自らの意見や経験からおこる思いを発信すると同時に、他者の意見も聞き、自他の意見を大切にしようとする態度を養うことがねらいである。

多面的な考えの中で意思決定する授業実践を2時間行った。前回までの授業における対話では、自分の意見と他者の意見を比較することで得ることができる考えの広がりや深まりを重視してきた。その一方で、「どの意見も大切だよね」で終わってしまうと集団での意思決定ができない。単元の中で学んだ知識を生かして意思決定を行う活動を通して、自他の意見の利点について肯定的に理解した上で、意思決定する力を養う授業を実践する。

(3) 評価方法

アンケートは2019年9月25日の実践授業前と2019年11月27日の実践授業後に計測した。表1におけるアンケート結果の各項目において、「はい」と答えた児童を4点、「どちらかと言えばはい」と答えた児童を3点、「どちらとも言えない」と答えた児童を2点、「どちらかと言えばいいえ」と答えた児童を1点、「いいえ」と答えた児童を0点とする。縦軸に自己尊重度、横軸に他者尊重度の2軸とするグラフにプロットする。自己尊重に関する質問項目を5個(A~E)、他者尊重に関する質問項目を5個(F~J)用意し、それぞれの尊重度の合計点(20点満点)を座標に記入することとする。

Ⅲ. 自他尊重の態度育成を目的とした授業の結果と考察

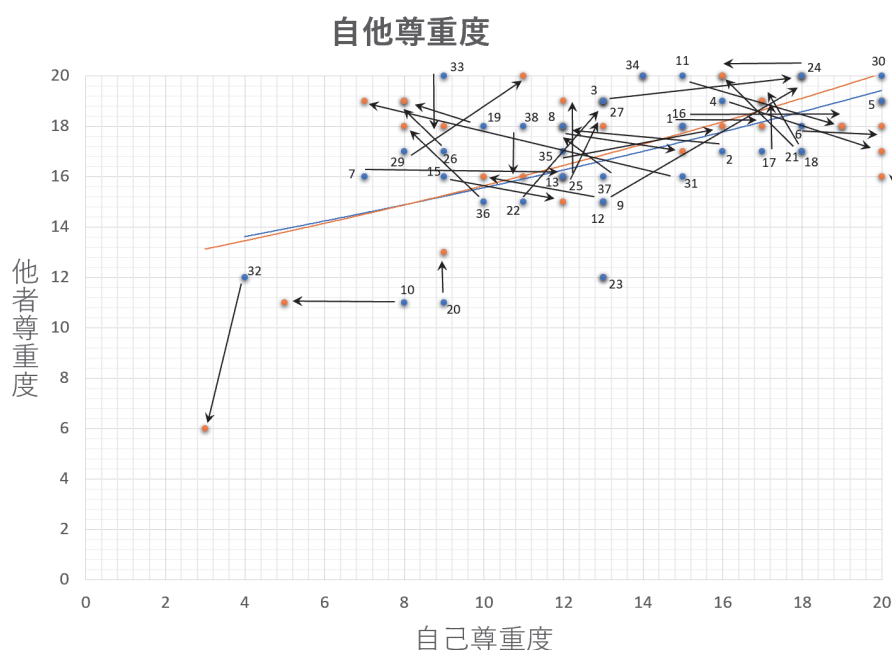


図2 個人別、実践授業前後の自他尊重度の変容

実践授業の前と後では、以上のような変容が見られた。このアンケート結果より、2つの授業実践の前後を比較すると、今回のねらいであった自他尊重度の高まりが確認された児童が見受けられた。自己尊重度の平均は0.53点、他者尊重度の平均は、0.45点増加している。しかし、これらに有意差は見られなかった。

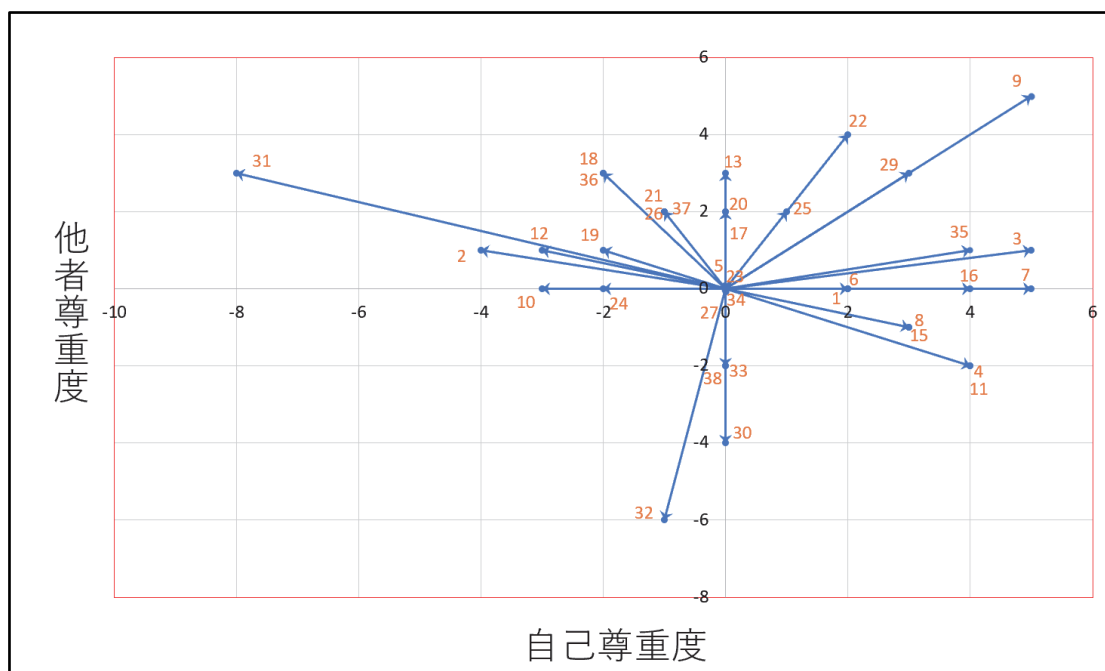


図3 実践授業前と実践授業後の自他尊重度の差

さらに、授業実践における実践授業前後の児童の変容として、児童を下の9つの傾向に分類することができた。図2と図3における数字は、それぞれ児童に対応している。(14と28は欠席)

表2 自他尊重度の個人別変容の内訳

(a) 自己尊重度、他者尊重度が上昇	
(a)―①自己尊重度、他者尊重度ともに上昇	6人(3、9、22、25、29、35)
(a)―②自己尊重度のみ上昇	4人(1、6、7、16)
(a)―③他者尊重度のみ上昇	3人(13、17、20)
(b) 自己尊重度が下降し、他者尊重度は上昇または変わらない	
(b)―①自己尊重度が下降、他者尊重度は上昇	9人(2、12、18、19、21、26、31、36、37)
(b)―②自己尊重度が下降、他者尊重度は変わらない	2人(10、24)
(c) 他者尊重度が下降し、自己尊重度は上昇または変わらない	
(c)―①他者尊重度が下降、自己尊重度は上昇	4人(4、8、11、15)
(c)―②他者尊重度が下降、自己尊重度は変わらない	3人(30、33、38)
(d) 自己尊重度、他者尊重度ともに下降	1人(32)
(e) 自己尊重度、他者尊重度ともに変容なし	4人(5、23、27、34)

以下に、表2の項目別に日常の行動観察に基づく児童の特徴例を示す。

(a)自己尊重度、他者尊重度が上昇

(a)－①自己尊重度、他者尊重度ともに上昇が見られる

- ・委員会の仕事に責任をもち、自主的に行動したことを教師から評価された。(9)
- ・担任教師の授業中、苦手な算数でも挙手して全体の前で意見を発表しようとする姿が見受けられてきた。(29)

(a)－②自己尊重度のみ上昇

- ・身体のことを友達にからかわれても、優しく言い返すことができる。(1)
- ・他者と意見が違ふと多少不安になるが、自分の意見を伝えようとする。(6)
- ・負けず嫌いな性格である。他者の意見を聞きたいという気持ちを行動に移し、休み時間を使って確かめようとする。(7)

(a)－③他者尊重度のみ上昇

- ・周囲の行動に気づき、自ら行動したり、手伝ったりする姿が見られる。(13)

(b)自己尊重度が下降し、他者尊重度は上昇または変わらない

(b)－①自己尊重度が下降、他者尊重度は上昇

- ・実践授業の中の話し合いの前後で比較すると、最初の自分の意見と最終的な自分の意見が真反対となり、両極端で考えている。(31)
- ・全員遊びで一人楽しくない人が出てきたときには、どうすればみんなが楽しめるのかを考え、行動に移している。(31)

(b)－②自己尊重度が下降、他者尊重度は変わらない

- ・根拠のある意見をもっているものの、友達の意見を聞くと流されてしまう。(10)

(c)他者尊重度が下降し、自己尊重度は上昇または変わらない

(c)－①他者尊重度が下降、自己尊重度は上昇

- ・クラス全体に意見を発表で意見が伝わらず、泣いたことがあった。(11)

(c)－②他者尊重度が下降、自己尊重度は変わらない

- ・苦手なところでも、友達に聞かず自分で何とかしようとする。(30)
- ・根拠をもった意見をもっているものの、意見が二転三転する。(33)

(d)自己尊重度、他者尊重度ともに下降

- ・休み時間に、読書をするを友達からからかわれることがある。日記には「読書中でも話しかけられたら返答しようとして努力したい」という記述があった。(32)

(e)自己尊重度、他者尊重度ともに変わらない

- ・実践授業の中で、自分の意見を支える根拠を書くことができていなかった。
- ・グループ対話を通して、自分の意見をもつことにつながっていた。(34)

IV. 傾向別の今後の指導について

表3 傾向別、今後の指導の重点

(a) 自己尊重度、他者尊重度が上昇	
(a)–①自己尊重度、他者尊重度ともに上昇	⇒ 【指導A】 + 【指導B】
(a)–②自己尊重度のみ上昇	⇒ 【指導B】
(a)–③他者尊重度のみ上昇	⇒ 【指導A】
(b) 自己尊重度が下降し、他者尊重度は上昇または変わらない	
(b)–①自己尊重度が下降、他者尊重度は上昇	⇒ 【指導A】 + 【指導C】
(b)–②自己尊重度が下降、他者尊重度は変わらない	⇒ 【指導A】 + 【指導B】 + 【指導C】
(c) 他者尊重度が下降し、自己尊重度は上昇または変わらない	
(c)–①他者尊重度が下降、自己尊重度は上昇	⇒ 【指導B】 + 【指導D】
(c)–②他者尊重度が下降、自己尊重度は変わらない	⇒ 【指導A】 + 【指導C】 + 【指導D】
(d) 自己尊重度、他者尊重度ともに下降	⇒ 【指導A】 + 【指導B】 + 【指導C】 + 【指導D】
(e) 自己尊重度、他者尊重度ともに変わらない	⇒ 【指導A】 + 【指導B】

自他尊重度を高める指導として、表3のような9つに大別した。表3(a)–②群に(a)–③群の特徴を合わせ持つように促す(自己尊重度を高める)指導を指導A、表3(a)–③群に(a)–②群の特徴を合わせ持つように促す(他者尊重度を高める)指導を指導B、表3(b)–②群の自己尊重度が低くなる原因を克服するように促す指導を指導C、表3(c)–②群の他者尊重度が低くなる原因を克服するように促す指導を指導Dとしている。

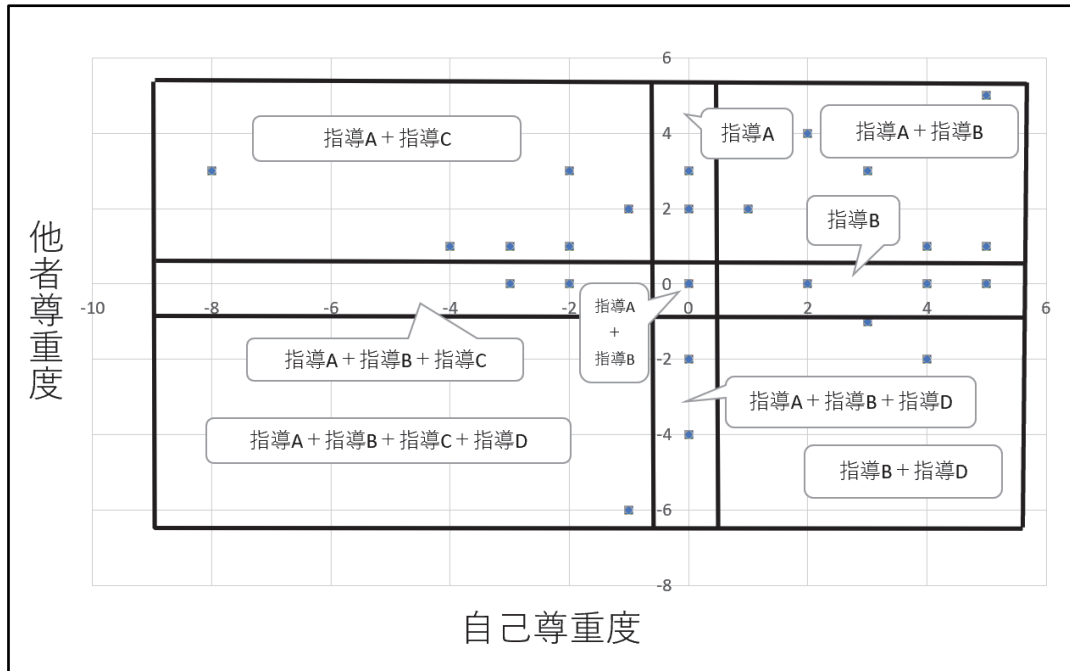


図4 傾向別、今後の指導のイメージ

前章で述べた児童の特徴から、以下のような指導例を提案する。指導 A は(a)－②のように自己尊重度のみが上昇した児童を参考にし、指導 B は(a)－③のように他者尊重度のみが上昇した児童を参考にし、指導 C は(b)－②のように自己尊重度が下降した原因を参考にし、指導 D は(c)－②のように他者尊重度が下降した原因を参考にしている。

【指導 A】→他者尊重度を高める指導

(指導例)・・・自分の意見を伝えるというチャレンジを、自分や他者から承認できるような指導

【指導 B】→自己尊重度を高める指導

(指導例)・・・クラスのために、考えて動く児童を育てる指導

【指導 C】→自己尊重度の負要因を克服する指導

(指導例)・・・協力の必要性を感じる指導

【指導 D】→他者尊重度の負要因を克服する指導

(指導例)・・・どんな意見でも受容される環境づくり

【指導 A】＋【指導 B】→自己尊重度、他者尊重度ともに高める指導

(指導例)・・・児童の意思を尊重した指導、グループ対話を取り入れた指導

V. 参考文献

- ・山口 大樹 (2020 年) 「小学校社会科における、自他尊重の態度の育成に向けた実践研究」 2019 年度長崎大学大学院教育学研究科実践研究報告書
- ・文部科学省 (2017 年) 小学校学習指導要領解説社会編
- ・富田 元、佐藤 逸郎、廣瀬 隆人、森 健一郎 (2018)
「子どもたちの学力と所属感の向上を図る学級経営の在り方
－内的対話を促す授業実践を通して－」
- ・松井 豊、櫻井 茂男、堀 洋道 (2012)
心理測定尺度Ⅳ 子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉 サイエンス社
- ・宮本 聡介、吉田 富二雄、堀 洋道 (2015)
心理測定尺度Ⅴ 個人から社会へ〈自己・対人関係・価値観〉 サイエンス社